

## 大在家八雲社について

江戸時代中頃、大田窪村（現在は太田窪となっている）に悪疫が大流行し、多数の病死者が出て村の人たちは大変心配と不安が募り、その極に達した。

このため、村人たちが集まり話し合い、疫病退散の御利益あらたかなる、京都八坂神社に祈願参拝と御分身勧請のため、村人の代表者3名が村人と水盃を交わし京都へと旅立った。そして、天保12年（1841年）に八雲社の社殿

### 注 1

を建立し、村に牛頭天王様が御鎮座されたところ、さしもの疫病も次第に衰え、その後は耐えて疫病の発生はみなくなったという。

村人たちは、この御利益に村中をあげてお祭り（天王祭）を催した。慶応2年（1866年）のお祭りに際して、氏子で囃子連中が結成され、神輿

### 注 2

も修繕し7月13日を宵宮とし、氏子総出で御神酒をあげてご祈禱を行った。翌14日には神輿の村内渡御が行われ、青・壮年男子に担がれた神輿が村中を練り歩いた。

昭和13年（1935年）に谷田村大字太田窪字大在家の耕地整理が行われた際、その余剰地6畝18歩が寄贈され神社境内とし、現在ある社殿が新築された。また、同時に神輿（現在の大神輿）も新調され、八雲社の面目一新した。

その後、昭和51年4月に「大在家八雲社」を宗教法人として登記した。その記念事業として、稲荷様、天神様と鳥居の建立等の工事を行った。同年10月には三社遷宮執行にあたり、善前にある行弘寺住職（神主でもある）により、遷宮祭を執り行い、現在の大在家八雲社となった。

平成12年11月には、氏子たちが京都八坂神社を参拝し、新しい御神体を拝領してきた。

注1 天保12年頃：江戸幕府 第12代将軍 徳川家慶  
水野忠邦（老中）による「天保の改革」が始まる

注2 慶応2年頃：江戸幕府 第15代将軍 徳川慶喜  
翌年、徳川幕府が滅亡

※八雲神社は、牛頭天王・素戔鳴尊（スサノオの尊）を祭神とする祇園信仰の神社。明治時代の神仏分離により、牛頭天王は禁止され、牛頭天王と習合していた素戔鳴尊（スサノヲノミコト）となる。

# 大在家 八雲社

## 八雲社とは

- ◆ 名 称 宗教法人 大在家八雲社
- ◆ 歴 史 江戸時代中頃の天保12年(1841年)に京都八坂神社に御分身勧請し、社殿を建立したところ疫病が退散した。慶応2年には囃子連中を結成し、神輿も修理して村内渡御が行われました。これが現在も続けている「牛頭天王祭」です。昭和13年、谷田村大字太田窪字大在家(現在の太田窪1・2・3丁目)の耕地整理を記念して、現在の社殿を建立するとともに神輿(現在の大神輿)も新調し、今に引き継がれています。
- ◆ 主 神 牛頭天王(ごずてんのう と読みます。)＝素戔嗚尊(スサノヲノミコト)  
【吉凶方位全てを支配する神】  
※ご神体は京都八坂神社より拝領しております。
- ◆ 合 祀 不動明王(厄除け)  
稲荷大明神(商売繁盛)  
天満宮【菅原道真公】(合格祈願・学問・習い事)
- ◆ 儀式行事

1 月 1 日	初参詣	
2月始の午の日	初午祭(稲荷大明神祭)	
2 月25日	天神祭	
3 月28日	不動明王祭	
7月第1土曜日	牛頭天王祭	(宵宮:前夜祭)
7月第1日曜日		(本祭:神輿渡御)
12月31日	お焚き上げ	

